

津高同窓会報

発行所

〒514-0042 津市新町3丁目1-1

津高等学校
同窓会事務局TEL・FAX 059-229-7331
共立印刷株式会社

母校創立 百四十周年 歴史をつづく



同窓会長 飯田 俊 司(昭和36年卒)

会員の皆様には平素より同窓会活動に格別のご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

本年六月の代議員会で会長、副会長(十名)、会計、会計監査(二名)の全役員が再任されました。今後二年間同窓会の発展に努力する所存ですので皆様のご支援、ご協力をお願いします。

本年の同窓会活動は五月に東京同窓会、八月に本部同窓会、九月に名古屋同窓会、十一月に大阪同窓会が盛大に開催されました。

また、五月に第十回学年対抗ゴルフ大会、十二月に第九回「有造塾」を開

催、何れも多くの会員に参加いただき、同窓会の団結と会員間の親睦を深めることができました。

本年は四月三十日に明仁天皇が退位され、五月一日に皇太子さまの新天皇即位とともに元号が「令和」に改えられました。

令和は日本における最初の元号「大化」(六四五〜六五〇年)から数えて二四八番目の元号になります。改元にはその時代を背景に様々な理由がありました。通常は皇嗣が天皇の位を受け継ぐ「踐祚」によるものですが、皇居の火災、旱魃、疫病、洪水、地震などの厄運から人心を一新、より良い時代への願いを込めたものも多かったようです。明治以降は一世一元の制が定められていますが、それ以前はその定

めがなく、後花園天皇(在位一四二八〜一四六四年)は八回改元しました。令和は誰もが期待する「平和な日々」に感謝し希望に満ち溢れた新しい時代を切り開いていく」という期待が込められております。十月には、リチウムイオン電池を開発した吉野彰氏のノーベル化学賞受賞が発表され、また第九回ラグビーワールドカップ日本大会で日本チームが悲願の第一次リーグを突破、日本全体が喜びに沸き立ちました。しかしながら、七月以降大型台風が何度も日本列島を直撃し、各地に甚大な被害をもたらしました。また、中国、北朝鮮、韓国などの東アジア諸国との緊張関係は依然として続いております。

高齡化の進展、地震、火山噴火といった自然災害への対応とともに令和の時

ご挨拶……………	2
津高創立百四十周年記念事業……………	2
陶製の鉦……………	5
思い出すままに……………	5
東日本大震災から八年……………	6
被災地からの報告……………	6

私はこうして生きてきました……………	6
夢創り、ロンドン編……………	7
恩返し的人生……………	8
少林寺参法を通じて……………	8
津高名古屋同窓会会長就任のご挨拶……………	9
社会の端を歩こうと考えて47年……………	9

津高大阪同窓会長……………	9
会長就任のご挨拶……………	10
学年対抗ゴルフ大会に参加して……………	10
進路状況……………	10
各地で同窓会開催……………	11
令和元年総会・パーティー……………	12



ドローンにて母校を撮影 9月25日 協力 中川 治(昭和46年卒)

タイトル・書 工藤 雅 俊(昭和45年卒)

代で解決されることを祈るばかりです。来年は津高創立百四十周年を迎えます。これまで十周年毎に記念事業を実施してきましたが、今回も「経ヶ峰登山」、「海外旅行」、「母校の放課後」な

どを計画していますので皆様のご参加と運営等のご協力をお願いします。最後になりましたが、同窓会の益々の発展と、皆様のご健勝をお祈りします。

ご挨拶

学校長 大川 暢彦



会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は母校に対する深い愛情とともに、本校教育活動に多大なるご支援、ご協力を

賜り、厚く御礼申し上げます。
私は、本年四月、中川弘文校長の定年退職に伴い、三重県立桑名高等学校から着任いたしました大川暢彦（のぶひこ）と申します。微力ではございますが、今まで培われた本校の歴史と伝統を継承しつつ、津高校のさらなる発展に寄与できるよう全力を尽くして参る所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、本校は来年度創立百四十周年を迎える三重県で最も歴史と伝統がある県立高校です。『自主・自律』の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校を目指す学校像として、教育活動に取り組んでいます。
また、昨年、文部科学省から三期目のスーパー・サイエンス・ハイスクールにも指定され、大学や研究機関、企業と連携し、すべての生徒に探究的な学びも推進しています。
さらには同窓会の皆様をはじめ、保護者の皆様、地域の皆様から温かいご支援をいただき、子どもたちの成長と

津高創立百四十周年記念事業.....

来年の令和二年、津高は創立百四十周年を迎えます。それに伴い同窓会では記念事業を企画しました。予定行事として、▼募金 ▼名簿発行 ▼母校の放課後 ▼ゴルフ大会 ▼海外旅行 ▼経ヶ峰登山 などの事業を予定しております。同窓生の皆さまのご協力、ご参加をよろしくお願い致します。

津高創立百四十周年記念事業

実行委員長 戸田 喜之（昭和44年卒）

◎名簿発行

今まで五年毎に名簿の発行を行ってきました。
令和二年一月二十九日発刊

十年、授業の後には楽しい放課後にしよう、と、「母校の放課後」をテーマに決めました。津高の同窓生を自負できる記念事業になればと思っています。

◎募金

節目の年に合わせ、母校に記念となるものを寄贈したいと考えております。また、百四十周年記念事業も実施できるよつ、何卒ご協力のほど宜しくお願い致します。

◎母校の放課後

十年前、百三十周年記念事業で「母校の教壇」をテーマに、恩師や様々な分野で活躍していただける卒業生をお招きして授業を再現しました。あれから

◎ゴルフ大会

令和二年五月六日（水・祝）
今回は個人戦です奮って応募下さい。
於 タートルエースゴルフ倶楽部
（亀山市山下町一〇五五）

夢や希望の実現に向け、豊かな学びの環境づくりを進めていきたいと考えています。

本校は、文武両道を目指して部活動の面でも活躍しており、三重県高等学校総合体育大会において、男子総合第五位、女子総合第七位の優秀な成績でした。その中でも、ボート部、陸上競技部、弓道部が全国大会に、水泳部が東海大会に出場しました。本校に部活動はありませんが、個人でボウリング、少林寺拳法が全国大会に、なぎなた、ヨットが東海大会に出場しました。また文化部においては、音楽部が中部合

◎海外旅行

令和二年六月十六日～六月二十五日
（絶景のフィヨルド・北欧・古都、世界遺産満喫の十日間の旅）

◎経ヶ峰登山

令和二年十月四日（月）午前八時半
草生公民館（津市安濃町）集合、順次出発予定。



本館前の時計塔

記念募金のお願

津高等学校は、明治十三年以来百四十年の輝かしい歴史を持つ三重県内で最も伝統のある学校として存続してまいりました。現会員数は約五万名を数え、多数の同窓生が、国内はもとより世界各国において活躍されていることは、ご同慶の至りであります。

このような素晴らしい歴史の節目としての百四十周年を多くの同窓生と祝おつと、数多くの意義ある記念事業の開催を企画いたしました。母校の発展と、同窓会の更なる充実を期したいと考えております。

そこで、これらの記念事業を成功させるため、同窓会員皆様の熱意に大いなる期待をし、記念募金をお願いいたします。大変厳しいご時世ではありますが、何卒よろしくご協力の程お願い申し上げます。



130周年記念ではトレーニング器具を寄贈

これまでの募金活動には、発起人会

を設立し、趣意書を配布して、お願いしてまいりましたが、今回は役員会及び企画委員会で募金活動を行い、主として同窓会会報を通してお願い申し上げますことになりました。ご理解下さいますようお願いいたします。

〈寄付金募集要項〉

- 1 募金の目的
- ① 創立百四十周年記念事業の実施
- ② 創立百四十周年記念の学校への

同窓会名簿発刊

同窓会員名簿『あゝ母校』

皆様に、住所確認はがきなどで協力いただきました名簿を令和二年一月二十九日に発刊いたします。

刊行にあたり、個人情報保護の精神を十分に尊重するように配慮し、名簿委託会社サルトと共に進めてまいりました。

今回の名簿が母校と同窓会員相互の掛橋となり、会員相互の結びつきを一層強める絆となり、同窓会活動の活性化につながっていくことを願っております。

・一冊 五、二〇〇円(税・送料を含む)
・お申し込み先

- 2 募金目標額 一千万円
- 3 寄付額

- 4 同窓会員一口五千円(一口以上寄付の払込み方法)

- ① 郵便局からの払込み

同封の払込み用紙を、利用下さい。
口座番号 082007-84907

- ② 銀行からの払込み

(払込費用は不要)
百五銀行本店
普通1089668

- 5 募集期間 令和三年二月末まで

へ払込みください。

令和二年一月二十九日発刊

令和二年一月十日までに(株)サルトへお申込ください。

TEL 079-284-1138



母校の放課後

— 令和二年十一月一日(日) —

委員長 田 中 康一郎(昭和57年卒)

各界でご活躍の同窓生と懐かしい恩師による豪華講師陣で大いに好評を博した「母校の教壇」から十年を経て、今回記念行事の一つとして立案しましたのは、珠玉の授業に引き続いての同窓生参加型のイベント「母校の放課後」です。

コンセプトは、卒業以来、ともすれば足が遠のきがちな母校へ帰って来て、懐かしい校舎や設備を創立記念日の一日だけ同窓生が占拠して、放課後のように楽しく自由に使っちゃおうという企画です。

会場は校内全域に及び、本部主催のメインイベント会場となる体育館のほか、武道場・各教室・中庭・グラウンド・テニスコート・弓道場など、想定されるほとんどの施設が用意されます。

この日に限って特別に開放された母校の施設を、同窓生の自主イベントに活用することで、在学中の思い出を辿り旧交を温め、世代を超えた同窓生同士の交流を活性化する貴重な機会としていただけることを願っています。同時に今現在の母校に立ち返る場を通じて、同窓会活動に未参加の若い世代を含む、より広範な同窓生に参加の裾野を広げていければと期待しています。

参加対象として、各学年・各クラブ・

趣旨を同じくする同窓生の任意団体等にお気軽に、ご参加いただけます。

企画内容は、コンセプトに沿って現在鋭意計画を進めているところです。

本部主催のメインイベントとしてゼレモニーでは、駒田早代さん(平成30年卒)による津軽三味線演奏を、著名講師による講演会では、小菅一弘さん(昭和49年卒)東北大学教授、篠原誠さん(平成3年卒)クリエイティブディレクター等を予定しています。

同窓生の企画参加を募るエリアでは、各学年でのホームルーム開催や諸企画の実施、学年を越えた交流会開催、各クラブの交流、自主企画団体によるパフォーマンス・講習会・展示会・模擬店など、自由で多彩な催しが構想されています。

開催は令和二年十一月一日(日)。来年開催の代議員会(六月六日)を目途にイベント企画最終参加を取りまとめ、同窓会総会(八月一日)の席上で詳細について最終のご案内の予定です。

併せて同窓会のホームページでも最新の情報を随時お知らせしてまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

記念ゴルフ大会(個人戦)

— 令和二年五月六日(水・祝) —

創立百四十周年記念ゴルフ大会を開催します。個人戦となります。ふるってご参加ください。

日程 令和二年五月六日(水・祝)

場所 タートルエースゴルフ倶楽部
(龜山市山下町一〇五五)

(〇五九五一八三一二二二)

参加費 一三、二〇〇円

(プレー費・昼食・コース売
店・パーティー代・賞品代含
む) キャディは別途

定員 一六〇名

競技方法

十八ホールストロークプレー

九ホールペリア方式によるHCP戦



◆海外旅行日程表◆

月日	スケジュール
6月16日(火)	津なぎさまちから、セントレアに集合、ヘルシンキへ フェリーにてタリンへ タリン(泊)
6月17日(水)	終日：【世界遺産】タリン市内観光 タリン(泊)
6月18日(木)	タリンよりフェリーにてヘルシンキへ 空路、ノルウェー・ベルゲンへ ベルゲン(泊)
6月19日(金)	【アナ雪の街】ベルゲン市内・郊外観光【世界遺産】 ケーブルカーにてフロイエン山観光 ベルゲン(泊)
6月20日(土)	ベルゲン鉄道、世界でも指折りの人気路線にて。 フロム山岳鉄道、ノルウェー国鉄の最高傑作と言わ れる鉄道、ソグネフィヨルドクルーズ【世界遺産】 ネーロイフィヨルドも航行 フィヨルド真正面のホテル ハダゲンフィヨルド(泊)
6月21日(日)	専用車にてゴルヘ 昼食後、オスローへ 到着後、オスロー市内観光 オスロー(泊)
6月22日(月)	専用車にて空港へ イギリス・エジンバラへ 昼食後、【世界遺産】エジンバラ市内観光 エジンバラ(泊)
6月23日(火)	ハイランド、溪谷と湖・スコッチウイスキー蒸留所 観光 エジンバラ(泊)
6月24日(水)	空路、ヘルシンキへ。空路、日本へ 機内(泊)
6月25日(木)	到着後、解散

創立百四十周年の記念旅行として、
旅行会社のパンフレットにはない独自の
魅力的な旅を企画いたしました。

そのまな残すエストニアの首都タリン、
近年では映画「アナと雪の女王」のモ
バルト海クルーズにて中世の面影を

絶景のフィヨルド・北欧・古都、世界遺産満喫の
十日間の旅

海外旅行

— 令和二年六月十六日(火)～六月二十五日(木) —
「タリン・ヘルシンキ・フィヨルド・オスロ・エジンバラ」

お申込方法

ハガキ・FAX・メールに下記の事
項をご記入の上、津高同窓会事務局

申込締切 令和二年二月二十八日(金)

(定員になり次第〆切)

へお申込み下さい。
・名前・住所・電話番号・性別
・生年月日・卒業年度・H C
同組で回りたい方、キャディを希望
される方は、その旨ご記入下さい。

経ヶ峰登山

— 令和二年十月四日(日) —

デルともなったノルウェーのベルゲン、
そこの二つの絶景山岳鉄道を乗り継
いでフィヨルド観光と宿泊。オスロ
より歴史の息づくスコットランドの首
都・エジンバラを巡ります。
数々の世界遺産を眺め、行程的にも
ゆったりと、三都市二連泊といしま
した。「料金は高めだけど、中身は最

高！」と毎回ご参加の方、多数。
是非、ご夫婦、ご家族、お友達とお
誘いあわせの上ご参加ください。みん
なで、楽しい旅にいたしましょう。
お申込み・資料希望・お問合せは、
津高同窓会事務局へ
TEL・FAX 〇五九一三九一七三三
メール office@tsuko.jp



津市西部の高峰・経ヶ峰は、「眼を
放つ布引は」と津高の校歌にもうたわ
れる布引山地の北端に位置する標高八
一九の山です。津中や県立女学校時
代から毎年の登山が恒例行事で、多く
の同窓生の青春のふるさとなってい
ます。

山を、今回も計画しました。心地よい
汗を流し津市を一望できる頂上で記念
撮影、下山後には疲れを癒やするま
いなどを予定しております。多くの皆
さまのご参加をお待ちしています。
実施日 令和二年十月四日(日)
集合 草生公民館(津市安濃町草生
四二四九一)

申込み

午前八時三十分～九時十五分
の間に順次出発
駐車場に限りがあるべく
乗り合わせをお願いします。
名前▽住所▽連絡先電話番号
▽性別▽生年月日▽卒業年▽
血液型を記入し同窓会事務局
にメール=office@tsuko.jp=
または郵送=津市新町三丁目
一一一〇でお申し込み下さい。
締切りは令和二年八月七日
(金)日です。

対象

津高同窓生とそのご家族(年
齢制限はありません)

陶製の釦

塚澤

正(陳川24年卒・津高25年卒)



昨年の晩秋、冬に備えて畑を耕していると鋤の刃先に異物が当たる。拾い上げると小さな円い形をしており、土を払くと透明な黄褐色の陶製の釦(ボタン)で、天辺が少し欠けてはいいるが六稜の星が稲穂に包まれている。

六稜の星とは、中の文字を稜線でデザイン化したもので古くは金色中字章と呼ばれた津中生のシンボルである。裏側の釦を止める穴が欠落しているから使い物にはならないが、少年時代を思い出させるに足る代物である。この釦が私の制服に付いていたのは入学時の昭和十九年から終戦前後までの二年ほどであろう。駆け落ちてから発見される平成三十年までのおよそ七十年余の時を彷徨っていたわけで、見つめているとなにやら愛おしさを感じる。

釦という文字が金偏で成り立っているように、学生服の釦は元来金属であったのだが、戦時下、お寺の梵鐘を始めあらゆる金属が戦争に駆り出され、この影響を受けて昭和十五年施行の国民

服令によって釦が陶製になったものらしく、津中の制服も翌十六年には国民服となり釦は陶製になったとの記録がある。

当時の制服はどのようなものであったか。昭和五十五年十月刊の『津高創立百年記念誌』の座談会Ⅲで加藤明男先輩(昭和22年卒)は「学生服が私共のときには、もつステープル・ファイバーともつまして、いまの化繊のはしりでございますが、そのドンゴロスのような服で」と述べられ、私と同期

思い出すままに

板倉博



百周年刊行の「ああ母校」と共に会報を全て大切に残しています。

私は新町小学校より昭和二十一年県立津高女に入学しました。二十年の終戦により、教育制度が一変し教科書を塗りつぶし、6・3・3制の導入で津

の岡正基君は「全校そろったときがあったのですが、服がみな違ふんですね。黒い服、菜っぱ服(青色の労働服)、われわれのはもつ小豆のもつなの」と語っている。岡君の話は鞆にも及んでいて、皮製のもの、ズックに皮の縁取りのあるものなど多彩な中で「中に木の枠が入ってまして、表は桑の繊維で作った布をボール紙に貼ったという



陶製の釦

いちばん情けない鞆が私たちの背負ったものであった。

明治以降、生糸はわが国の基幹産業であり蚕は桑の葉を常食とする。終戦前の一時期、津地方では桑の枝の表皮を剥離して乾燥し、これを束ねたものを農村の老人と少年達が荷車に積み、現在は津球場となっている東洋紡績三重工場へ運んだものである。この桑の繊維が濃緑色の私達の制服となり鞆にもなった。

制服が酷使されたのは矢張り教練の時間であろう。もとより匍匐前進に耐えられる布地ではない。にもかかわらず地べたを這わされたし、付け加えれば銃剣道に使用する木銃の先端を連帯

じいけれど夢のある高校生活が始まりました。

演劇部の米本先生(ジャジさん)から、女生徒にもお声がかかり、芝居の好きな仲間が多数入会、今でも現役俳優の先輩と、学者、写真家、女将とスタッフは揃いました。夏休みは手づくりの舞台装置づくりと稽古の日々、「夕鶴」「おふくろ」などの公演はいつも満席でした。

年一回のジャジの会の旅では、旅先を舞台にした文学作品の一部を脚色して、有志が演じるという宴会の楽しみがありました。箕田先生による北里柴三郎の格言は堂々として素晴らしかったです。

結婚後は生駒に住み、子育て、草木

責任としてクラス全員が頭の天辺に落とされ、一瞬全身に痺れを感じたこと、たろんでいるとの理由で槍玉に挙げられ顔を平手打ちされたことなどが思い出される。

後年、野間宏著の『真空地帯』などで陸軍内務班の残虐を知ることになるのだが、これを踏まえての訓練だったとすれば、教官の行為には愛の鞭的要素があったものか。

敗戦の夏、爆撃によって全焼した校舎の後片付けに従事し、焼け跡の燃えるような暑さを体験したのとして、今日の平和をしみじみありがたいものと思つし、平和が永遠であることを切に願いながらこの寸話を終わる。

の世話の明け暮れでしたが、去々後、大阪放送劇団の柳川清先生の「生駒清朗会」に入りました。お二方の良き師と、その仲間たちのお陰で、最近、地元公民館の「ふれあいクラブ」で小さな秋の詩を朗読しました。

今、故郷南河路の土手から持ち帰った曼珠沙華があちこちを紅く染めています。生駒山を仰ぐこは子供たちの故郷。私の故郷は長谷山、経ヶ峰を望む津。津放送局のテレビラジオには思わず耳を傾けます。

最後になりましたが、56号「退職してから」の中津さま、音楽と美術館の好きな杖の身、帰郷の折には句会に寄せて頂きたいと夢みております。ありがとうございました。

東日本大震災から八年

―被災地からの報告

中 森 督 義 (昭和37年卒)



東日本大震災から丁度八年になる今年三月十日、故郷の津市で「今知って欲しい被災地の姿・復興って何ですか」と言うテーマで報告会を開く機会を得た。集会には小・中・高校の同級生も参加してくれて、半世紀ぶりの再会もあり望外の喜びの場となった。

六十五歳でNHK関係・名古屋大学関係の仕事をして終え、「一身一生」を夢見て、妻の故郷である岩手県遠野市に移住した。

一人の知人もいない未知の土地、人よりも鹿・熊の数の方が多い山間の集落で、過去の体験・常識・知識は全く役に立たない。自然との共生・隣人同士の助け合いなくしては生活できない日々は極めて新鮮で、「こゝで」「のほほん生活」に浸るつもりであった。

しかし三年目のあの日、生まれて初めて震度6の地震を体験。五日後に友人の安否を尋ねて、被災地の陸前高田から気仙沼へと向かう途中、一生忘れえぬ地獄絵図を目の当たりにした。

時空がねじ曲がった異次元の惨状が延々と続く光景を見て知ってしまったのだ。知ってしまった以上、知らぬ振りは出来ず、それ以降被災地とボランティア団体と関わり続け、現役時代の記者の習性が抜けずに今に至っている。

あの日、なぜあれだけの犠牲者が出たのか。悲劇の現場を取材し、資料を読むと「救えなかった多くの命」があったことが判る。

ある自治体では、毎年の津波避難訓練で、高台にある本来の避難所ではなく、危険地区にある建物を避難所として使っていたが、住民は何の疑いもなくここに避難して来て百六十人以上が亡くなった。ある小学校では、児童を校庭に待たせて教師が四十分以上もどこに避難するか協議して津波に呑まれ、児童七十四人と教師十人が亡くなった。

一方で、釜石市の小中学校では以前から「命を守る学習」を実施していて、地震後いち早く高台を走って逃げた。釜石市内には三千人近くの

小中学生がいたが、亡くなったのは当日休んだ子と途中親に連れ戻された子の五人だけだった。

何が生死を分けたのかが浮かび上がっている。

この八年半、遅れ続ける復興の陰に、政治の理念の無さと怠慢と杜撰さ、被災した地方自治体の過酷な実態と悲鳴、復興工事をエサに金儲けを企む一部業者の醜さも知ることになる。

全国から寄せられた「頑張ろう東北」の声に「これ以上何をどう頑張れと言うのだ」と疲れ果ててうなだれる被災者、オリンピックによる復興工事の遅れに「何が復興五輪だ、バカごっこだね」と怒りの言葉も耳に残る。また、被災直後の現地の人々の助け合いの姿に「人はここまで優しくなれるのか」と感動もした。

三年前、津高の同級生である伊藤昭君、世古(矢頭)敬子さんら四人が、被災地の現状を知るべく遠野市の我が家に一泊し、大槌町の惨状と、被災者



支援活動の一端を見てもらった。これがキッカケで去年伊藤君から「故郷の津市で被災地の現状についての報告会が出来ないか」との提案があった。

東南海地震が現実味を帯びてきた。今、東日本大震災から学ぶべきことも多く、お世話になった故郷・津の人々

私はこうして生きてきました

倉 本 一 宏 (昭和52年卒)



ればいいという、「学者のパラダイス」と呼ばれている所です。

実際には結構忙しいのですが、それでも授業や人試がないだけ、研究時間が確保できるようになり、現在、単著だけで四十二冊も刊行することができました。私は自分の本は自分で執筆し、自分で写真を撮ることになっているので、なかなか大変です。

十一年間の学生生活を経て、一九八九年以来、横浜と東京の大学で細々と教員をやってきました。その間に書いた本が目にとまり、二〇〇九年に京都にある日本文化研究機関に移籍して、今日に至っています。

そこは梅原猛さんが当時の中曽根康弘首相に頼み込んで一九八七年に設立された国立法人の研究所です。内外の日本研究者と共同研究をやったり、内外の日本研究者の研究指導や研究補助をやったり、海外でシンポジウムや講演や集中講義をやったり、大学院生の博士論文の指導をしたりしながら、実は自分の好きな研究を自由にやっていた。

現在では自分の好きな研究をやっている私ですが、思い出してみると、津

に少しでも参考になればとの気持ちで、報告会を開かせて頂いた次第だ。報告会に際しては、同級生の世古敬子さん、山本盛義君、三浦義秀君、永井玲子さんから半世紀の年月を超えて力をお貸し頂いた。同窓・同級のありがたさを今更ながらしみじみと感じている。

なお、私の研究テーマは、日本古代国家成立過程を解明すること、古代国家の王権と権力の構造を諸外国と比較すること、平安時代の古記録を解読して平安貴族の政治や社会や精神に迫ることです。二〇一三年にユネスコの世界記憶遺産(世界の記憶)に『御堂関日記』が登録された時に書類を書いたのは私です。また、二〇一一年には「一條天皇の御事蹟」という二進講を行なうこともできました。

現在では自分の好きな研究をやっている私ですが、思い出してみると、津



流石にこのようなことは稀ですが、東ロンドンには長年貧困区であったし、ギャング犯罪や移民で有名であり、映

夢創り、ロンドン編

坂井シャープ千穂（昭和62年卒）

高の三年間は、自分には何ができるのか、何になれるのかがまったくわからず、かといって何かをしないではいけないという、人生で最悪の時期でした（すべて私のせいなんです）。

特に田舎にいと、進路の選択肢が少なく、しかも（特に人文系の）学者になる人がほとんどいない地方なので、

自分はいったい、これからどうやってしまつたのだろうかいつも不安と焦燥に駆られながら、日々を過ごしていたように記憶しています。その間、先生方や同窓の皆様には、多大な迷惑をお掛けし、さぞや不快な思いをさせたのであらうと、反省するばかりです。

なお、私の進路設定に大きな影響を

与えてくれたのは、東大や駿台で英語の講師をしておられた奥井潔先生の言葉でした。仕事には *work* と *labor* があり、*work* は自分の好きなことをやる天職、*labor* は生活のためだけにやる労働で、*wage slave*（賃金奴隷）であるというものです。そして好きなことをやっていたら、貧乏でも人から笑わ

れてもかまわない、どうせ百年も生きるわけではない、と言われました。

好きな科目だけ勉強できる環境に進めば、そしてもっと得意な分野だったら、どれだけ不遇であっても苦にはならないし、それこそ寝食を忘れて打ち込めると気付いたのです。

というわけで、大学に入ってから四

十数年、ひたすら得意なことだけ勉強し続け、今でも毎日、朝から晩まで、三百六十五日、休む日もなく研究している人間になったというわけです。私の場合、研究は *work* でも *labor* でもなく、実は *play* なんだなあと感じている今日この頃です。

（国際日本文化研究センター教授）

日曜日、朝六時半、寢室のドアがバタンと開く音で起きた。立っていたのは、制服を着た三人の警官。映画のワンシーンかと目を疑った。「誰かが刃物で刺された」という通報があつて四人の警官が出動してきたが、住所間違

画やドラマのロケでもよく使われています。いろんなドラマが展開される可能性を秘めたこのカラフルな街に住むことになったのは、好奇心から生まれる小さな夢を追いつけた結果です。

九歳の娘に、ママが小学生の時の夢は何だったかと聞かれ、その当時は一日一日を楽しく遊んで過ごすことで頭が一杯で将来の事を考えなかったとは言えず、初めて夢を持ったのが、中学二年生の時だった事を話しました。英語と社会科学の授業で、世界には色々な言語を話す人がいて、色々な人種、文化や伝統があると情熱をもって教えてくださった先生の姿に感化され、この目で確かめて経験し、理解し、文化交流を通して世界平和に繋がる橋渡しをしたいと強く決心したのが始まりでした。

人種の垣塙と言われているニューヨークの大学で、心理学を専攻し、台湾で

その為、子供たちは産まれた時から、他国籍の人々と異文化に囲まれて育っており、生活環境そのものが、まるで国連集会の舞台であり、彼ら自身が既に民間外交官であると言っても過言ではありません。友達同士の異文化の違いを認めあい、理解することによって、必ず世界平和が可能だと思つようになりました。そのような子供たちをサポートする環境を提供し、地域社会に密接に貢献する事が出来たらと思ひ、近所の子供たちを預かるボランティアを始めたのです。

ところが、新しい土地で、児童保育の知識も経験もないゼロからの出発でしたので、かなり悪戦苦闘しました。しかし、前向きに、諦めることなく一つ一つを確実に解決していくにつれて

地域の人達の信用も得、二〇一三年に英国人とニュージールランド人の母親友達と三人で英国教育水準局に登録して、三歳から十一歳の子供たちを預かる児童保育を本格的に始めたのです。利益は、雇用と子供たちに還元されるという社会的事業体系を取り、家族の負担を減らす事も目的としています。

六年後の今、資格のある保育者十人を雇い、一日平均六十人程の児童を預かっています。この十月には、もう一つ新しい児童保育を開き、より多くの子供たちが安心して楽しく遊びながら友達との絆を深め、働く親が安心して預けられる環境作りに専念しています。多種多様な人種が集まった未来の民間外交官を育てる思いで、出来る限り一人一人の興味や長所を引き出せる機会も提供しています。自分の子供の頃とは違い、学童に来る子供たちは将来の夢を持っていて、目をキラキラ輝かせワクワクしながら話してくれます。そんな素直な子供たちの為に、夢に向かってやる気や興味をもっと引き出すために、色々な工夫をしています。

例えば、学童保育第一期の卒業生は、皆中学生となり、リーダーシップの素質がある子供が多いので、世界観を広げる機会となる、ドキュメンタリー映画の企画・撮影の講座を開き、彼らの、彼らによる、彼らが発信する、彼らの未来の為の環境保護対策に関する短編映画をつくりました。既存の政治社会体制を見直すきっかけにもなるので、十一月には家族や学校の先生、地域の人達を招待して試写会を予定しています。

より良い教育と安全な生活環境を求めて移住してきた移民の人達の話を知っていると、日本で生まれ何不自由なく両親に育てられ、教育を受けられる事がどんなに幸運であるかに気づき、日々感謝をせずにはいられません。子供たちの未来のために、何を残しているかを考えて実行するのみで、将来的には民間国際交換留学ができればいいと思っています。ロンドンにお越しの際は、将来の民間外交官の夢を広げる為に、折り紙や工作、スポーツのボランティアは如何でしょうか。

恩返しの人生

奥田 博 貴 (平成25年卒)



「自分の将来を考えるきっかけになった」周りからは冷たい目で見られていたが、先輩の話を聞いて津高でも声優になりたいという夢を持ってもいいんだと思えた」

そんな声がこぼれるのは、昨年の十月十八日、津高の体育館でのお話。

僕はComet TVという団体を通して、経歴も年齢も異なる津高OB・OG約五十名と一年生三百六十人がキャリアについて率直に話し合う交流会という授業を開催しました。意識したことはOB・OGの多様性。大学生もいれば社会人もいたり、高学歴な人もいれば大学に行かずに東京へ飛び出した人もいたり、更には自分のキャリアに満足している人もいれば、後悔している人もいる。普段、親と先生くらいしか社会の接点がない生徒にとって、この非日常が与える影響はとても大きく、この授業直後に文理選択を変更する生徒もいたそう。

さて、自己紹介が遅れました。僕は

現在東京の人材会社で働いています、新卒一年目の奥田博貴と申します。また、兼業で母校である津高でこのようなキャリア教育をOB・OGが主体となつて行う団体、Comet TVの代表をしています。何故新卒一年目の若造がこんなことをしているのか、そこに理由は色々ありますが、一つは津高校へ本気で恩返しをしたいからです。

津高時代は、真面目な学生でした(自称)。SSH(スーパーサイエンスハイスクール)で訪れた京大の自由な雰囲気は憧れ、一年の冬から志望していました。僕は本気で京大に行きたかった、行って周りから「京大凄いい」と言われたかった、あとモチベがかった。ただ、僕はラグビー部にも所属していたのですが、あつたことが同期のラグビー馬鹿は「三年の冬の花園までラグビーを続けたい」というのです。津高は進学校なので、多くの部活は三年の春で引退して、受験に集中します。それなのに、こいつらは馬鹿か？と当時は本気で思っていました。しかし、同期の熱さと花園出場且つ現役京大合格のカッコよさ(モチベ)に惹かれ、僕も三年の冬まで部活を続けることとしました。二つのことを本気で追うから時間があります。僕たちは如何に少ない時間で最大限の結果を出せるか、勉強

でもラグビーでもこだわり抜きました。(例、練習中は歩かない、メニューの目的を事前に全員理解してグラウンドに来る等)その結果として、ラグビーでは三重県三位(平成で一番の成績)に、京大は現役で合格出来ました。

当時の僕は自惚れていたのでもうこまで意識はしていなかったのですが、今振り返って思うと、それは本当に周りに助けられてこそ結果だったということ。いつ質問に行っても、どれだけ難しい質問をしても優しく答えてくださる先生方、雨の中財布をなくしたにも関わらず最後の試合の応援に来てくれた友達、初心者の僕にラグビーを教えてくれた先輩達、最後の試合で負けて僕たち以上に涙を流してくれた後輩達、何より僕を花園予選まで連れて行った



てくれた熱い同期達。皆さんの支えがあったから、そしてそんな皆さんに恩返ししたいという思いが心のどこかにあったからこそ、僕は本気で勉強もラグビーも頑張っていたのだと思います。

少林寺拳法を通じて

二年七組 樋口 健世

私が少林寺拳法に出会ったのは中学一年の春です。その半年前に父が始め、興味を持ったのがきっかけです。少林寺拳法は「人づくりの行」だと教わり、心身ともに強くたくましい人になろうと思いました。

少林寺拳法の修練を始めて五年目の今年、八月に開催されたインターハイ少林寺拳法男子単独自由演武(目の前に相手がいると想定し、その相手に突きや蹴りを入れたり、技を掛けたりする修練の一つ)に出場しました。

昨年は三重県予選で敗退し、今年こそはと思いつく懸命に修練を重ねました。今年の県予選では、インターハイ出場への思いが強かった分、これまでに経験したことがないくらい緊張しました。自分の順番になり、コートの真ん中に立ち、礼をして気合いとともに構えました。一つ目の技、二つ目の技と一心不乱に繰り返しました。自分の得点が何点だったか見る余裕がありませんでしたが、周囲の歓声から一位になりインターハイに出場できると分か

そして、そんな環境を与えてくれた津高だからこそ、僕は恩返しとして、OB・OGならではの教育を今の津高生に提供できればと思っています。

(リクルートキャリアエージェント)

り、喜びで胸一杯になりました。私にとっては今回のインターハイが初めての全国大会だったので、チャレンジャーとして臨みました。

全国大会という大舞台に立ち、会場の雰囲気は飲み込まれそうになりました。三重県で一位だからということもあり、少しは通用するかなと思っていましたが、全国には私よりはるかにうまい人があることを痛感しました。自分の技を全力でぶつけていきませんが、技術もスピードも遠く及びませんでした。とても悔しかったのですが、それと同時に自信ができました。今までの自分に全く自信がなかったわけではありませんが、三重県代表として全国大会に出られる力があることを自覚できました。また、この経験のおかげで物事をさらに前向きに考えられるようになった。

私は生涯ずっと少林寺拳法を続けていくつもりですが、ただ続けるだけではなく、世の中にもっと普及させたい

津高名古屋同窓会会長就任のご挨拶

社会の端を歩こうと考えて47年

高北 幸 矢 (昭和44年卒)



このたび津高名古屋同窓会会長に就任させていただくことになりました。富島照男前会長は、著名な弁護士という、社会において人望の厚い方でしたので、私のような者と驚

くばかりです。と申しますのは、私の職業はアーティストでありデザイナーです。三重大学教育学部を卒業して教員に成らずにこの道に進むことを決断した折、今は亡き父から「この極道者」と職業を全否定されました。この道に入ってから同業者の先輩から「我々は社会の端を歩いて行かなければならない」と教えられました。そういう職業であり、端を歩くことが社会を顧る眼を養い、良い仕事をする事ができるという意味です。また端を歩くこと

と端から落ちてアウトローに成ることとは大きな違いであることも付け加えられました。

一方で、四十年間大学に席をおかせていただいたので、社会に貢献し信用に尽えることも自分に課して来たことです。現在、非常勤ですが清須市はるひ美術館館長職にあり、また任意団体の愛知芸術文化協会理事長を務めています。年齢を重ねてきて、端を歩くという意味を改めて考える中、責任ある名古屋同窓会会長というお話です。大好きな母校の同窓会に微力ながらこれまでの経験を役立てることができましたら幸いです。



令和元年度 インターハイにて

とも思っています。少林寺拳法は、空手や合気道と間違われることが今でもよくあります。いつか誰しもが少林寺拳法を見てすぐに「これは少林寺拳法だ」と分かってもらえるようにしたい

です。

今は、三月に行われる高校選抜大会に向けて修練をしています。今度はインターハイよりも良い結果を残そうと思っています。

津高大阪同窓会会長就任のご挨拶

大阪同窓会長に就任して

岸野 文 郎 (昭和40年卒)

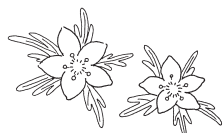


昨年の総会にて、奥田務前会長の後任に就任致しました。奥田様は長年に亘って国内外の経済界でご活躍され、会長を十七年間務められた方なので、荷が重いと固辞したのですが、中山事務局長、昭和40年卒の同期の方々始め、皆様方のご支援を頂くことでしたので、お引き受けしました。ご挨拶も

兼ね、八月の本部同窓会、五月の東京同窓会、九月の名古屋同窓会に出席し、皆様方の活発な活動を拝見することができ、大いなる刺激を頂きました。本部の飯田会長と隣り合って座った時、理系の会長は珍しいですね、と言われました。私自身は長年、情報関連の研究開発、教育に携わってききましたが、最近コンピュータの高機能化・低価格化、ネットワークの高速化等が相俟って、皆様もお聞きになられたことがあると思いますが、AI、IoT、ビッグデータ、VRなどの技術が著し

く進展しています。一方、世の中には各地で紛争が続く、自然環境の破壊が心配され、人口分布の変動など、多くの課題が話題になっています。これらの課題を解決するものとして、前述のAI(人工知能)などの技術革新が期待されていますが、本当に機械に委ねてしまつてよいのかとの議論もあります。誤った(あるいは恣意的な)入力データによる情報伝播・判断等の恐れがあります。あくまでも、最終的な総合判断は人間が下すべきで、機械は道具、手段として有効に使いこなしてこ

そ人類に貢献できるものと考えられます。総合的な判断ができるためには、幅広い見識が有効になります。高校の仲間、大学、会社等の繋がりと異なり、文系、理系に関わらず幅広い交流が期待されます。いろんな経験をお持ちの方々がおられる同窓会を有効に活用して頂ければと思いますので、老若男女が集い、そして大いに楽しみましよう。



第10回津高同窓会 学年対抗ゴルフ大会に参加して

紀 平 博 (昭和42年卒)



恒例の津高同窓会学年対抗ゴルフ大会が、五月六日(月祝)に亀山市にあるタートルエースゴルフ倶楽部で開催され総勢百六十六名が参加されました。我が昭和42年卒は、五十歳ごろから同窓会ゴルフコンペをやってきました。現在でも四十名近い参加で年に六回開催しています。こうしたことから、こ



の学年対抗ゴルフ大会には参加者が多いため出場枠が十六名に制限され、少数精鋭でもって参加しました。タートルエースは、コース管理がしっかりしている素晴らしいゴルフ場であり、実行委員会の皆様によいような場所がゴルフができることを感謝しております。私も相性のいい、好きなゴルフ場の一つです。

これまでも、団体の賞に何回か入ることはありましたが、学年優勝と個人優勝は初めてだと思えます。この日は、既に七十歳を迎えゴルフからのティーショットで、飛距離は

進路状況

進路指導部 豊田 貴之

平素より本校の教育活動、進路指導にご理解ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

現三年生は入試を目前に控え、一生懸命学習しています。来年度から入試制度が一部変わり、「大学入学センター試験」が今年度で最後となることから、重圧を感じている生徒は少なくありません。多数の先輩方が学んだ校舎で友人とともに切磋琢磨しながら受験を乗り越え、四月からは新しい環境で活躍してほしいと思っています。

さて、現二年生が大学受験をする年からは制度変更により、知識・技能のみならず「思考力」「表現力」「学びに向かう力」等がさらに求められることとなります。しかしながら本校は従前より、生徒自身がその力を身に付け、また自分の新たな可能性に気づく

時間をいただき誠にありがとうございます。

最後に、学年対抗ゴルフ大会にあたり飯田会長をはじめ、実行委員会の皆様には心から御礼申し上げます。この大会が毎年開催され、津高の伝統行事となり、いつまでも続けられるようお願いとともに、私も健康でいる限り参加してゴルフを楽しんで参りたいと考えています。

ための環境を整えて参りました。日々の授業や部活動、行事はもちろん、卒業生の方々に指導いただく講演会や研修などがそれに当たります。今年度も毎年恒例の東大キャンパスツアーをはじめ、大学教授による研究紹介、各分野で活躍されている卒業生との交流会など、たくさんの方々の企画を実施しました。生徒達にはこれら様々な活動を通して、学ぶことの魅力や多様な価値観を肌で感じ、高校生活を充実させ、主体的な進路選択につなげてもらいたいと考えています。

生徒の希望する進路が実現するよう教職員も一丸となって支援して参ります。同窓会の皆様には、今後とも後輩たちに手厚いご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(大学合格者数)

	国立	公立	私立	短大
(2019) H31年	185	41	760	7
(2018) H30年	200	40	703	15
(2017) H29年	199	23	648	9
(2016) H28年	194	35	748	15
(2015) H27年	192	38	780	7

	北海道	東北	関東	一橋	東工大	名古屋	三重	三重・医・医	京都	大阪	神戸	九州	慶応	早稲田	同志社	立命館
(2019) H31年	3	1	0	0	0	21	67	8	6	7	7	1	4	10	70	120
(2018) H30年	4	0	5	0	0	16	64	8	11	11	8	2	5	17	68	93
(2017) H29年	2	1	5	0	1	15	73	5	14	13	18	2	6	5	63	71
(2016) H28年	3	0	3	1	0	22	64	7	13	11	10	2	6	7	69	113
(2015) H27年	3	2	3	1	1	22	60	4	12	14	5	1	5	13	92	106

各地で同窓会開催

東京同窓会

令和元年度津高東京同窓会は、五月二十五日例年通り霞ヶ関ビル三十五階の東海大学校友会館にて、二百二十一



名の参加を得て盛大に開催されました。総会では田村東京同窓会会長の挨拶に続いて事務局より事業報告、役員の再任報告、会計報告がなされました。来賓紹介に続き田川本部同窓会副会長、大川津高等学校校長よりご挨拶を頂戴しました。招待恩師の藤田哲美先生、奥野民憲先生の紹介に続き、東京藝術大学音楽学部邦楽科三味線音楽専攻の駒田早代さん(平成30年卒)の津軽三味

名古屋同窓会

令和元年九月二十一日、令和初となる津高名古屋同窓会が、名古屋東急ホテルにて開催されました。

心配されていた台風の影響もほとんどなく、総勢百十三名の同窓生が集まり、例年同様賑やかな会となりました。

総会に先立ち、昭和47年卒の新聞輝夫様に「名古屋市政よもやま話」と題し、港区長や副市長をご経験された立場から、市政の実情や仕事に取り組み姿勢、更には長寿社会を生きる秘訣など、津高の気風に通じる「責任ある自由」をキーワードに、大変興味深い講演を頂きました。

総会では、世代交代を目的とした大幅な役員改選が提議され、昭和44年卒の高北幸矢様が会長となる新体制が満場一致で決議されました。

富島会長(昭和28年卒)をはじめ、これまで長きに亘り名古屋同窓会役員

を務めて頂きました諸先輩の皆様には感謝申し上げますと共に、十五年にも亘り事務局をお引き受け頂きました(株)スズケン別所会長(昭和37年卒)、相川様に對しまして、同窓生一同、改めまして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

来年は津高創立百四十周年であり、その節目の年に新役員体制での新たな船出となります。本会が益々賑やかになるよう若い世代も知恵を絞って盛り上げてまいりたいと思っておりますので、引き続き先輩方のご指導を賜りますと共に、若い世代からの多数のご出席をお待ちしております。

塩谷豊久(平成2年卒)



大阪同窓会



第五十三回大阪同窓会は十一月三日都シティ大阪天王寺にて、陳川昭和17年卒の大先輩から平成30年卒の現役学生まで総勢百五十四名が集い盛大に行われました。

岸野文郎新会長の挨拶に始まり、ご来賓の方々からのご祝辞を頂戴いたしました。

新しく赴任されました大川校長先生からはご挨拶に続き、津高校の近況をご説明頂きました。

恩師代表として、国語担当の澤山晋先生と英語担当の谷口勝昭先生にご出席頂きました。

会員講演は、温泉学のエキスパートで今やテレビ等で活躍の国際医療福

祉大学教授、前田眞治氏(昭和48年卒)による「温泉でもっと健康に！」でした。家庭での入浴と温泉との効果の違い、温泉の種類による身体への効用の違い等を勉強することができました。会員講演後の懇親会では、卒年毎にテーブルを囲んで和気藹々の語りとなりました。

アトラクションは、田中(倉田)千春さん(昭和48年卒)による手品が披露されました。次から次へと繰り出される熟練の技と驚きの展開にドキドキしながらステージに釘付けとなり楽しいひと時を過ごしました。

三重ゆかりの物産品も好評の内に完売することが出来ました。

現役大学生二名の紹介に続き、津中、津高女、津高の校歌を斉唱し、来年の再開を約束して令和最初の同窓会は幕を閉じました。

最後に、遠路ご参加頂いた皆様、ご協力頂いた方々にお礼を兼ねて報告とさせていただきます。

望月則子(昭和48年卒)





令和元年度総会・パーティーを終えて

榎本 貴之(平成10年卒)

令和元年度陳川・三重桜・津高同窓会総会・パーティが『絆々』思いをつなぐ歴史をつなぐ』というテーマで八月三日(土)、メッセウイング・みえにて盛大に開催されました。陳川・三重桜からは十五名、津高から六百九十二名、来賓・恩師を含めて、総勢七百十九名の方々にご参加いただきました。

当日は十五時より本年度の総会が開催され、物故者への黙祷、飯田同窓会長・大川学校長のご挨拶、代議員会の報告が行われました。続くパーティでは、落合実行委員長の開会宣言にはじまり、「現役の高校生にもパーティを体験してもらい、未来へ絆ぎたい」と

お知らせ

令和二年度 総会・パーティー

日時 令和二年八月一日(土)

午後三時より

場所 津センターパレスホール 五階
都シティ津(津都ホテル)五階

テーマ 「環々めぐる」

担当学年幹事

昭和62年卒(代表 伊東 直人)

平成11年卒(代表 浦田 敏寿)

令和二年度総会・パーティーのお知らせ

実行委員長 伊東 直人(昭和62年卒)

同窓生の皆様におかれましては、益々健やかにお過ごしのことと存じます。

津高創立百四十周年を迎えるとともに、津高同窓会統合六十周年となる、令和二年度総会・パーティーは、昭和六十二年卒と平成十一年卒が担当させていただきます。また来年は、皆様ご存知のように東京オリンピック・パラリンピックも開催され、たくさん感動が生まれる年になると思います。記念すべき年に担当させていただくこととなり、一同身の引き締まる思いで準備を進めております。

テーマは「環々めぐる」としました。「環」はぐるりと周っている様子から「つながったもの」、「強い結びつき」を連想させます。また丸く終わりのない様を表す環(わ)のイメージから、今後も若い世代まで津高同窓の輪がつながり続けてほしいとの願いも込めています。

来年の同窓会当日が和やかで楽しいものとなりますよう、一同心よりおもてなしさせていただきますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



事務局 だより

○会報五十七号をお届けします。今回は二万四千四百部の発行です。

○第九回有造塾では、十二月六日(金)に、講師として、内田真田美さん(昭和55年卒・アートコーディネーター)をお迎えして開催する予定です。

○津高第一回卒業 昭和24年卒の皆様より、同期会でお持ちだった残金七万三千三百一十円を、百四十周年記念の募金にと、寄付いただきました。今回は、名簿発行の年にあたり、物故者掲載はありません。

○事務局は、月・火・水・金曜日の午前九時〜午後四時開局しています。住所異動の際は、卒年・名前・新住所をお書きの上、書・FAX・メールのいずれかでお知らせください。

○最新情報は、是非、ホームページをご覧ください。

津高同窓会の
ホームページ

<http://tsuko.jp/>

メールアドレス
office@tsuko.jp

TEL・FAX 059-229-7331